



# 在宅医療は健幸医療

長尾 和宏

医療法人社団裕和会・理事長  
長尾クリニック・院長

福島県いわき市にお住いの水産加工場を営んでいる五十代のご夫婦から、お父様についてのご相談です。



**お答えします！**

十年前の東北大震災で母と一人息子を亡くし実家も津波で失ったため、五年前に父が建ててくれた家で父と私たち夫婦三人で生活しています。

家を建ててくれた父はもともと腕が良いと評判の大工でした。が、コロナウイルスの感染拡大により一年ほど前から仕事が減ってしまい、今年になってからは仕事の依頼がほとんど無くなり、今では一日中家に閉じこもるようになつてしましました。

最初の頃は父がお酒を飲んでも「今まで頑張ってくれたんだから、気晴らしになるなら好きなお酒くらい多めにみてあげよう」と一人でしばらく様子をみていましたが、最近では食事もほとんど取らず、毎日のようく七合以上のお酒を飲むようになつてしまい、歩くことも辛くなっているような状態です。

今まで大きな病気一つせず認知症もなく、お酒を飲んでも周りの人に迷惑をかけたり暴力をふるうことのない父ですが、このままでは体を壊し本当にアルコール依存症になるのではと心配で、何とか病院に連れて行こうと二人でいろいろ手を尽くしましたが、その度に「自分は何の問題もない、病気でないから行かない」と言われ、しまいには怒り出してしまい、全く聞く耳を持ちません。

そんな父にお酒をやめさせることは無理でも、量を減らすことは可能でしょうか？

また、相談するとしたらどこに相談すればいいのでしょうか。

先生の「意見とアドバイスをお願いいたします」  
何卒よろしくお願ひいたします。

保健師さんの力量にもよりますが、減酒につながる可能性があります。また医療機関を受診するきっかけになる可能性があります。

依存症の専門家は一般的には「精神科医」となっています。その中でもアルコール依存症を専門とする医師を探して相談に行くべきです。本人が「アルコール依存症を克服したい」という意思があるのであれば、アルコール専門病棟への入院を考慮すべきです。もしも入院できれば、半数以上はアルコールと縁を切っています。しかし、諸般の事情で入院できない場合が多いのが現状です。アルコール依存症の治療を外来通院で行う精神科クリニックもあるので、ネットで探して下さい。

外来治療の実際は、嫌酒薬などの薬剤を飲みながら専門家のカウンセリングを受けます。患者会のメンバーがサポートしてくれる場合もあります。元・依存症患者さんのアドバイスはとても説得力があります。

しかし、いずれもかたくな拒否する患者さんがたくさんおられるのが現実かと思います。私のク

リニックにはそんなご家族が相談に駆け込みます。私はまずご自宅を訪問します。本人ではなく、家族の誰かと同級生ないし友人がたまたま遊びに来た、という設定になります。三十分程度、様々な世間話をしながら当人にもご挨拶をします。警戒心を解くことさえできれば結構、話が弾みます。そこで「実は町医者もやつてています」なんて切り出し「何か困ったことがあれば言つてね」と軽い調子で語ります。

もう少しアルコール依存症の在宅医療について詳しく話します。うちに自然と親しくなります。とにかく拒否されないように禁酒や入院などの話はしないように努めます。ある程度信頼関係ができると思えば、そこで初めて「一度、健康診断を受けませんか」と言う

「何かあつた時にどうすればいいの？」  
「発熱時や転倒時に救急車を呼んでもいいの？」  
「もし朝起きたら亡くなっていたら警察沙汰になるの？」

セコムではありませんが、24時間対応が家族に大きな安心を与えます。家族の不安を軽減する目的で定期的に訪問するのです。

よく分からぬけれども医者が治療の第一歩になることがあります。しかし、「健康診断」という言葉さえ受け入れない人が多くいます。



**ひとりも、死なせへん**

（この国には、弱い人の命を助けるのを知らない人や、自分の命を助けてくれる人を）

（この國には、弱い人の命を助けるのを知らない人や、自分の命を助けてくれる人を）

（この國には、弱い人の命を助けるのを知らない人や、自分の命を助けてくれる人を）

著者／編集：長尾 和宏  
出版社：ブックマン社  
定価：1650円(税込)

そもそもアルコール依存症の方は医者も薬も大嫌いという人がほとんどです。また医者にどこかの精神病院に強制入院されるのではないか、と内心恐れています。

僕はそれでも一ヶ月間に二回訪問します。もちろん在宅医療の契約を結んでからです。医者が来ることに本人が怒りだし、拒否に転じることがあります。しかし、それでも行き続けます。視診はチラツとでも家族の悩みに気を配ります。家族は、そんな家族を抱えていること自体がとにかく不安なのです。

（この國には、弱い人の命を助けるのを知らない人や、自分の命を助けてくれる人を）

（この國には、弱い人の命を助けるのを知らない人や、自分の命を助けてくれる人を）

（この國には、弱い人の命を助けるのを知らない人や、自分の命を助けてくれる人を）

す。無言のプレッシャーです。たとえば、飲酒量が七合から四合に減るだけでも良しとするという考え方もあります。

（この國には、弱い人の命を助けるのを知らない人や、自分の命を助けてくれる人を）

ニコチン依存症の治療目標とは、従来は「完全禁煙」でした。しかし、それが無理な場合は、「減煙でも仕方がない」という考え方に入れつつあります。だから、かかりつけ医や在宅医に「減酒でもいいですから」と頼めば、関わってくれるかもしれません。

（この國には、弱い人の命を助けるのを知らない人や、自分の命を助けてくれる人を）

医師よりも看護師の言葉が効く場合もあります。優しい訪問看護師に褒められたい一心で減酒する人もいます。

（この國には、弱い人の命を助けるのを知らない人や、自分の命を助けてくれる人を）

最後に、コロナ禍はまだ続きそうです。9月14日の三冊目のコロナ本『ひとりも、死なせへん』（ブックマン社）が出ました。ご興味のある方はご一読下さい。

（この國には、弱い人の命を助けるのを知らない人や、自分の命を助けてくれる人を）

まずは、東日本大震災で大きな被害に遭いながらも家族で支えあいながら頑張ってこられたこの10年間のご努力に敬意を表します。大変でしたね。毎日、ご苦労さまです。

さて、コロナ禍以降、あなたのお父様と同様の方が私の周囲でも増えています。まずは、お父様は「アルコール依存症」という病気だと受けとめてください。「依存症」という病気ですから医療が必要です。しかしほとんどの人が病識がないか、あつても医療機関の受診を拒否されます。だから家族は困るのですが、いくつかアドバイスをします。

保健所には精神科専門の保健師さんがいて、統合失調症や依存症などの相談に応じています。依存症であれば、ダルクなどのアルコール依存症の患者会を紹介してくれるでしょう。今はさすがにコロナ対応で多忙でしょうが、相談に行くべきだと思います。保健師が家に来てお父様とお話しをするでしょう。

きらめき  
プラス

# Volunteer

2021 September Vol.90



50億の借金を今から  
長谷川 浩子

支援は心と心で向き合うもの

対談 岩朝 しのぶ×大塚 芳紘